

第5回諏訪湖イベントひろば基本計画専門委員会 会議録

○ 日 時

令和2年10月27日（火）午前11時～午前12時

○ 会 場

諏訪市役所 5階 大会議室

○ 出席者

<諏訪湖イベントひろば基本計画専門委員>

平尾勇委員長、林直樹委員、今井晴彦委員、浅井学委員、五味武嗣委員、
北原弘子委員、小針知栄美委員

<オブザーバー>

長野県産業労働部、長野県諏訪地域振興局、諏訪圏工業メッセ実行委員会、
リビルディングセンタージャパン

<運営支援>

信州地域デザインセンター

<事務局>

渡辺副市長、木島企画部長、寺島企画政策課長、中澤企画政策係長、茅野企画政策係主査

○ 会議概要

1 開会

(木島企画部長)

- ・これより第5回諏訪湖イベントひろば基本計画専門委員会を開催する。本日は五味嗣夫委員が欠席となっている。
- ・傍聴の希望があるが許可しても良いか。
※委員の了承を頂いた後、傍聴希望者入室。

2 副市長挨拶

(渡辺副市長)

- ・委員、オブザーバーの皆様にはお忙しいところご出席いただきありがとうございます。
- ・コロナ禍にあり、諏訪市でも様々な対策を進めているが、アフターコロナについても検討していくかなくてはいけない段階にある。その中には、イベントひろばの検討も重要なものと認識している。
- ・前回の専門委員会で公的な機能として産業振興について重点を置くことを確認いただいた。その後開催した市政懇談会でこの件について説明をしている。市政懇談会での意見を踏まえ事務局から説明をして、皆様に協議いただきたいと思う。

(木島企画部長)

- ・それでは協議に入りたい。進行は平尾委員長にお願いしたい。

3 報告

(1) 市政懇談会結果について

(平尾委員長)

- ・市政懇談会を経て、市民意見を反映した内容となっている。熱心な議論をお願いしたい。
- ・(1) 市政懇談会結果について、説明を願いたい。

(茅野企画政策係主査)

※資料 1 に基づき、市政懇談会で出た諏訪湖イベントひろばについての意見について報告

(平尾委員長)

- ・様々な意見が出てきたと思う。
- ・報告事項について質問、意見等あるか。

(A 委員)

- ・工業メッセの開催についても考えてほしいという意見について、今回コロナの影響で通常開催できずリモート商談会の開催となった。来年度以降の工業メッセ開催方法を含めて、この検討にコロナの影響はあるのか。

(茅野企画政策係主査)

- ・工業メッセについて、今年は残念ながら通常開催できず、新たな手法としてオンライン商談会を実施することとなった。コロナ以前から、より効果的で時代に合致した開催方法の検討という考え方があった。来年以降、コロナの影響についてまだまだ先が見えてこないが、これを機会にメッセについては新たな開催方法についての検討も必要と考えている。

4 協議

(1) サウンディング調査について

(平尾委員長)

- ・(1) サウンディング調査について、説明を願いたい。

(茅野企画政策係主査)

※資料 2-1、2-2、3-1、3-2 に基づき、民間事業者参入の可能性や投資意欲を探るとともに、あの場で自ら事業を実施するプレイヤーを発掘することを目的に民間事業者向けと市民向けの 2 本立てのサウンディング調査を実施する旨を実施要領、事業説明資料内容とともに説明。

(寺島企画政策課長)

- ・若い市民を中心とした民間有志で、ひろばで自ら何ができるかを提案しようとする団体が立ち上がったことを把握している。行政に対してあれが欲しい、これをやってくれという要望ではなく、自分たちでは何ができるか、プレイヤーとしての提案ができる場を設置した。

(平尾委員長)

- ・通常のサウンディング調査は、民間事業者の投資について提案を受け付けるものである。

今回はそのサウンディングを市民向けにも実施する。市政懇談会でも市民の意見を聞いてほしいというような意見があった。それを踏まえてこの方法を検討したという説明であった。これについて意見をいただきたい。

(A委員)

- ・事業者向けサウンディング調査については、以前意向調査を実施した企業が対象なのか。
それ以外の企業も対象となるのか。

(茅野企画政策係主査)

- ・以前調査した企業はもちろん対象となるが、それらの企業に限らず広く公募する。

(B委員)

- ・市民向けについては面白い試みなので基本的に賛成。
- ・事業者向けの提案事項について、説明資料で事業主体が市と民間で表記され、主に民間となっているところについての提案を受けると思う。しかし、産業振興についての説明資料は多いが、民間に期待する機能についての資料はほとんどない。民間提案については自由に考えて提案してもらっていいのか。
- ・産業振興についても、例えばマネジメントの機能については参入の可能性があるのではないかと思う。そういう提案も受けるのか。文章をみるとどちらを求めているのかはつきりしない。もう少し丁寧な記載が必要だと思う。
- ・コロナの影響について、需要回復は2024年頃とも言われている。事業時期について、延ばした方がいいと判断する企業もいるかもしれない。
- ・産業振興機能の中にあるコワーキングについては、リモートワーク等推進の動きもあり、今までにないニーズが出てくる可能性がある。その部分について民間が参入する可能性はある。状況を反映したものにした方がよいと思う。
- ・市民向けについて、こうして欲しい、ああして欲しいというお願いにならない、自ら主体となった提案があればいいと思う。しかし、具体的な計画がないと考えが浮かばない人もいるので、これは継続的にやってもいいかと思う。

(茅野企画政策係主査)

- ・産業振興の説明を前面に出した資料となっているが、市としてこの分野を主軸とすることを強調している。この分野は民間投資による参入は難しいという検討結果から、市が投資をして実施することとなっている。しかし、リモートワーク等新たな働き方や価値観が生まれている。産業振興部分についても民間の提案を受けないということはない。表現を工夫し、そちらについても積極的な提案を促していきたい。
- ・他の民間提案機能についても、この産業振興機能を更に効果的なものとする提案は積極的に取り入れていきたい。
- ・事業時期についても、急いであの敷地を埋めていくということは考えていない。

(寺島企画政策課長)

- ・現時点での投資意欲を見極める大切な調査だと考えている。新たな価値観が生まれていることもあり、サウンディング調査の結果から軌道修正していくこともある。
- ・来年7月を目指して基本計画を策定していくが、まずこの計画に提案要素が載ることで今後の継続的な検討の可能性も出てくる。

(B委員)

- ・ハードではなく、ソフトの機能だけの提案も受け付けられるようにした方がよい。

(C委員)

- ・機能に対する投資主体が市、民間とかなり鮮明に書かれている。産業振興機能は全て市がやると思われてしまわないように、柔軟な提案が受けられるようにしたほうがよい。
- ・今後サテライトオフィス、リモートワークについては重要視される可能性はある。また、コロナの影響がいつまで続くかわからないことから、時期については柔軟に対応するしかないと思う。

(D委員)

- ・市民向けについて、提案なのか要望なのかの差はどこか。例えば文化センターで何かやるときに駐車場が足りないというものは提案できるのか。

(茅野企画政策係主査)

- ・例としてそこで自らが主体となってやるのか、それとも市におまかせなのかということが判断材料の一つとなる。自ら何かをやることに付随したものであれば提案と考えてよいと思っている。

(D委員)

- ・隣接している文化センターを利用する方が提案できればいいのではと思うが。

(寺島企画政策課長)

- ・この調査は基本的に要望を受け付けるものではない。しかし、自分たちが主体となり、これをやりたいという提案をする中で、この部分は行政にお願いしたいというものであれば遠慮せず盛り込んでいただいてよい。

(E委員)

- ・事業者と市民の両方に調査することはよいことだと思う。
- ・産業振興についてソフト側の提案が欲しいのか、どういうものを提案して欲しいのかということがわかりにくい。
- ・産業振興機能について出口戦略と記載がある。この出口は発信をすればいいのか、どこが出口なのか。外貨を稼いでくるということであればもう少し強いメッセージが欲しい。

(茅野企画政策係主査)

- ・産業振興の出口戦略について、情報を発信しただけではただ情報を出しただけで終わってしまう。これは工業に限らず、どの産業分野においてもだが、継続的な発展のためには稼ぐということは重要であり必要不可欠。表現について工夫したい。

(C委員)

- ・産業振興の出口戦略について、もう少し明確な表記の工夫をお願いしたい。

(F委員)

- ・まずは聞くことからスタートだと思う。どんなものが出てくるか、市場の状況含めて確認したいと思う。

(G委員)

- ・この提案について、委員会メンバーも提案をしてもいいのか。

(茅野企画政策係主査)

- ・提案に関しては特にフィルターをかけないので誰でも可能である。
- ・ヒアリングは事務局側で実施する。

(平尾委員長)

- ・専門委員会の判断として、サウンディング調査の方針はこの2本立てでの実施でよいと思う。資料については微修正をして公募していくことになる。
- ・できるだけ幅広く事業者から提案をいただきたいが、投資リスクについて考えると、コロナは大きな検討材料になると思う。急いで判断するのではなく慎重に判断していきたい。
- ・市民向けサウンディング調査は、お願いという要望ベースの調査ではなく、プレイヤーを掘り起こすという目的がある。新たな事業を考えるには若者、移住者、女性等は重要なプレイヤー。そういう人々が活躍できる場所は必要になってくる。

5 事務連絡

(茅野企画政策係主査)

※事務連絡

6 閉会

(木島企画部長)

- ・今後も議論を継続していく。市ができること、民間にお願いしていくことそれぞれある。時間をかけて良いものを作っていくたい。本日はありがとうございました。

(閉会 12時10分)